



発行所  
日刊自動車新聞社  
東京都港区芝大門1丁目10番11号  
購読料 1カ月5343円+税  
電話 東京(03)5777-2351代表  
©日刊自動車新聞社2018

6月26日  
(火曜日)

# 中国で来年にも量産

## ドア開閉検知用スイッチ 上海拠点に開発機能

### 神明電機

各種スイッチやコネクタを手がける神明電機（大河内尚志社長、川崎区）は中国で自動車ドア開閉検知用スイッチを量産する。中国系自動車メーカーでドア開閉検知用スイッチのサンプル評価が終了しており、近く受注できる見通し。同社グループの上海市と江蘇省太倉市にある生産拠点で、早ければ2019年にも量産する予定。新車市場世界トップの中国の自動車産業は今後も成長が見込まれることから、中国の自動車関連事業を伸ばしていく構え。

同社によると従来、中国系自動車メーカーの調達では、発注した部品の開発から供給されるまでのリードタイムやコストを重視していたことから、現場系サプライヤーからの調達比率が高かった。ただ、最近ローカル自動車メーカーが品質も重視するように

なっており、高い品質を掲げる同社製品も商談が進み、ドア開閉検知用スイッチを受注できる見通し。

同社では中国生産子会社の上海神明電機（上海市）、太倉神明電子（江蘇州）でドア開閉検知用スイッチを量産する予定。製品供給予定先のサ

ンプル評価や工場の監査はほぼ終了したという。受注を確実にするため、太倉神明電子に続いて上海神明電機も国際自動車産業特別委員会（IAATF）が定めた品質マネジメントシステムの規格を19年をめどに取得する予定。

また、上海の拠点には開発機能を持たせる。現在、ほぼ全ての製品の開発を日本で手がけているが、顧客の近くで製品を開発・生産することで、納入先のニーズに迅速に対応するとともに、開発から量産までのリードタイム短縮

を図る。中国拠点での開発に携わる人員は数人でスタートするが、本社からエンジニアを派遣するとともに、現地での採用にも力を入れていく。

また、同社では中国での事業拡大に向けて、商社なども活用して販路の拡大を図る。中国系企業との商取引に強い商社の力を借りながら取引実績を持たない中国系企業からの新規受注を開拓していく。

同社の売上高全体に占める商社・販売会社経由の受注割合は5%程度だが、将来的には30%程度にまで引き上げる計画。

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。